

# HLA 遺伝子型タイピング検査(NGS法)報告書の見方

1 検査登録番号: ○○○○○○-○○○ 報告書作成日: ○○○/○○/○○

## HLA遺伝子型検査 報告書

○○○病院  
×××科  
△△△△△先生



### 2 HLA遺伝子型 high resolution typing

No	名前/ID	続柄	HLA-A	HLA-B	HLA-C	remarks
1		患者				

No	名前/ID	続柄	HLA-DRB1	HLA-DRB3/4/5	HLA-DQA1	remarks
1		患者				

No	名前/ID	続柄	HLA-DQB1	HLA-DPA1	HLA-DPB1	remarks
1		患者				

方法: Next Generation Sequencing(NGS)によるSBT法(Scisco Genetics社)では、Class I(A, B, C座)は exon1-7、Class II(DR, DQ, DP座)は exon1-4 および一部の Intronをタイピングの対象としていますので、日本組織適合性学会 HLA標準化委員会の表記法に基づき、原則として第3区域までを表記します。Intron変異によるN(null allele) および L(low cell surface expression)については、第4区域までを表記します。また、抗原ペプチドを収容するドメインをコードする領域(Class I: exon 2, 3, Class II: exon 2) の塩基配列が判明している場合は、複数の候補アレルを表記することを避けるため、最も小さい数字のアレル番号に「G」を付記する「G codes表記」を使用しています。(G codes表記については、[http://hia.alleles.org/alleles/g\\_groups.html](http://hia.alleles.org/alleles/g_groups.html) をご参照下さい。)

### 4 HLA抗原型 equivalent

No	名前/ID	続柄	HLA-A	HLA-B	Bw	HLA-C	HLA-DR	HLA-DRB3/4/5	HLA-DQ	Haplo
1		患者								

5 Comment and Donor search advice

6 蓋然性の高いハプロタイプの推定

Comment and Donor search advice と蓋然性の高いハプロタイプの推定は、タイピング結果のHLA-A,B,C,DRB1 の4座・第二区域までを用いてコメントしております。

公益財団法人 HLA研究所  
〒600-8813 京都市下京区中堂寺南町134 京都リサーチパーク1号館2階  
TEL: 075-313-5201(代表) FAX: 075-313-5202 E-mail: hla@hla.or.jp

報告書作成者

報告書確認者

1 問合せの際に必要な照会番号です。

2 日本組織適合性学会、HLA標準化委員会の表記法に準じて表記しています。

3 HLA-B 抗原には2種類の共通エピトープがあり、そのエピトープの抗原名を報告しています。

4 遺伝子型に対応する HLA 抗原型を表記しています。

5 検査結果に対するコメントなどを記載しています。

6 蓋然性の高いハプロタイプを推定して、ハプロタイプ解析を行っています。